

# ジュニア



# ミュージアム

んながこうふんするのもむりありません。まだリングのような形になつてなくても、こうふんしてしまいます。

さあそろそろリングになる七時三十一分。あとちょっと、あとちょっととみんながそう思つてゐるとき、リングになつてみんなは大きさわぎ。ほくもこうふんして、「すごー!」

「わーわーわー。」

「すごいねー。」

など、いろいろな声があがりました。

そして一番きれいに見える七時三十四分。このときは、あたりが少し暗くなつて夕方のようでした。太陽は、きれいにリングじょうで、たつた三分しか見られないそうで、すから、じつくり見ました。七時三十七分におわつてしまつて、みんなもぼくも、

「あー。」

とざんねんそうにして言いました。

しかし、百七十三年ぶりの日食が見れたのです。ちぶでは、もうじんせいで一回しか見られない

かもしだせません。百七十三年の中でもくたちは、えらばれたのです。いまでもこのことを、すごいと思つています。

ぼくもちちぶで見られたらまた見たいです。

(評) 金環日食を観察する様子をます。興奮している友だちの様子や自分の気持ちがよく伝わってきます。

五月二十一日、今日は、あのとてもきちよな、金環日食の日です。いつもより三十分はやくおきて、わくわくしながら学校へ行きました。学校についてみると、みんなはもう日食グラスで、かけはじめる太陽を見ていました。もう太陽は、かけていたみたいで、「わーわー。」



「百七十三年ぶり、金環日食」  
皆野小4年

宮澤  
春希くん



(評) 運筆に気をつけ、大きくのびのびと書けました。

「ぞりがにとあそんだよ」  
三沢小1年

加藤  
彩華さん



〈本人のコメント〉

風景の中に入れた人物を細かく書くことに気をつけて描きました。

皆野小5年

新井  
みら  
未来さん



国神小5年

後藤  
あゆ  
愛結さん



皆野中3年  
「荒川と岩畳」

宮前  
あかり  
朱里さん



荒川と岩畠